



富竹中だより

甲府市立富竹中学校
学校だより第6号
令和元年9月12日
文責 戸澤

全国学力・学習状況調査の結果について



本年度、全国学力・学習状況調査が、全国の小学校6年生と中学3年生を対象として実施されました。本校でも、3年生が、4月18日（木）に参加しました。

この調査は、教科に関する問題（国語・数学・本年度は英語科）と学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸問題等に関する質問紙調査に分かれています。教科に関する調査では、①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できることが望ましい知識・技能。②知識・技能を活用する力や課題解決のための構想を立て実践し評価改善する力。この2つを一体的に問う調査となっています。この調査結果をもとに、本校の学力や学習状況を分析・把握し、各教科における成果や課題、生活状況の実態を明らかにすることで今後の指導の改善に役立てることを目的にしています。

本年度は、2学期からこの結果を役立たせるため、文部科学省から7月末に結果が送付され、各教科担当が中心となって分析を行ってきました。また、この分析をもとに、富竹祭や新人戦の取組と並行して授業改善へ向けて取り組んでいるところです。つきましては、分析結果の概要を、取り急ぎお知らせいたします。3年生には個人票が配布されます。自己の結果を確認し、今後の学習に役立ててほしいと思います。1・2年生にも教科の授業改善や家庭学習の取組に生かしていくように活用していきます。

本校の状況

※「ほぼ同等」とは±5ポイントの範囲内にあることをいう

各教科の平均正答率は、国語、英語については、全国平均を下回ったものの、「ほぼ同等」といえる結果でした。英語の「話すこと」については大きく上回りました。ただ数学は、若干ほかの教科より低い結果でした。質問紙調査では、ほぼ全国平均と同様な結果が見られています。生徒と教師との関係は良好な関係ですし、各教科の授業も丁寧に教えてくれると答えています。また、数学については好きな生徒の割合が低い傾向でしたが、各教科共に将来役に立つ学習であることも認識しています。授業では、話し合い活動において自らの考えを深めたり広めたりできている傾向です。また、国語と英語については、教科として全国平均より良好な印象であることを示しています。どの教科も授業へ向かう姿は前向きですし、集中して授業を受けています。家庭学習にも積極的に取り組んでいます。自主学習ノートの取組を、生徒自らの取組として行う姿勢になってきました。学力向上ノートと名称変更したのは、その表れだと思えます。生活面では、学校の規則を守っている。いじめは許されない。など規範意識は高いと思われれます。また、グローバルな意識も全国平均に比べ高い意識であると思われれます。



全般的には、より良い学校生活を送っている状況ですが、生徒個々への個別の対応が必要なところを、どのように補い強化していくかが、本校の現状であり課題です。

本校の主な成果と課題

☆ 成果と課題

国語



- 設問全体を通して、全国平均と各領域ともほぼ近い正答率。しかし、県に比べるとやや低い正答率となった。また、無解答率は低い。これは、基礎的・基本的な知識・技能が身につけていることと、問題を解決しようとする積極的な姿勢、学習への意欲の高さの表れと言える。
- 「話す・聞くこと」については、設問により差は見られるものの、全国平均とほぼ同じ正答率になっている。その中で、「話し合いでの発言について説明したもの」に関する設問の正答率が高い。
- 「短答で問題に答える形式」について、本校は高い正答率となっている。特に「文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ」に関する正答率が高い。
- △「書くこと」に関する設問の「伝えたい事柄について根拠を明確にもつ」については、全国・全県に比べ低い正答率である。
- △「書くこと」の「生徒会役員の協議内容から、まだ結論が出ていない話題を特定し、具体的な提案をする」設問に関しては、全国・全県同様本校においても他の設問に比べて低い正答率となっている。

☆ 主な改善点

※「根拠を明確にして自分の考えを的確に表現する力」を育成するため、授業の中で意図的に「根拠や立場を明確にして自分の考えを書いたり、発表したりする場面」を設定する。※「複数の情報を結びつけ、根拠を明らかにしながら自分の考えを伝えることや、目的や条件を明確に意識し、必要な情報を見付け出す」力をつけるためには、中学校1年生のうちから、目的を意識しながら情報を集め、複数の根拠を挙げながら考えをまとめる活動に取り組ませる必要がある。

成果と課題

数学



- 記述式の問題は全国平均と同等か上回るものもあった。
- 無解答率は全国・県の平均より大幅に低く、わからなくても何とか答えを導こうという気持ちは表れている。
- △設問16のうち、正答率が全国平均を上回ったものと、県平均を上回ったものがそれぞれ2問ずつあったが、それ以外は平均を下回る状態であった。
- △正答率が全国平均と10ポイント以上の差がついてしまっている問題が7問と設問全体の半数近くあり、大幅な改善が必要である。特に最も正答率が低かった問題は、関数分野の設問で、関数的なものが見方ができるかを問う問題ができなかった。また、簡単な連立方程式を代入法（等置法）で解く問題の正答率も低かった。

☆ 主な改善点

※まずは各単元の基礎・基本の充実を図ることが急務である。新しい単元に入る前にその単元の学習をする上で必要となる既習事項の再確認をした上で授業に入れるようにしたり、単元途中でも必要に応じて同様なことをしたりしていきたい。

※男子生徒を中心に数学を苦手とする生徒が多い。まずは、苦手意識を少しでも払拭できるように個

別に指導ができる場面を設定していきたい。

英 語



☆ 成 果 と 課 題

- 設問全体を通して、無回答率が低い。このことから、あきらめずに、問題を解決しようとする積極的な姿勢が見られる。
- 今年度初めて実施された「話すこと」については、「聞いて把握した内容について、即興でやりとりをする」という設問で全国平均を下回っているものの、その他の設問では全国を上回っている状況である。
- 「聞くこと」に関する設問では、設問により差は見られるものの、全国平均とほぼ同じ正答率になっている。その中で、「語と語の連結による音変化をとらえること」や「教室英語を理解して、情報を聞き取ること」に関する設問の正答率が高い。
- △設問全体を通して、「読むこと」、「書くこと」に関する設問の正答率は全国、山梨県の平均を下回っている。このことから本校生徒がまとまりのある英文を読んだり、書いたりすることを苦手としている傾向がうかがえる。
- △「書くこと」に関する設問では、特に「一般動詞」と「3人称単数形」の肯定文・否定文・疑問文など、英文を正しく書くための言語材料の定着に課題が見られる。基本的な語や文法事項等の確認を行っていく必要がある。

☆ 主 な 改 善 点

- ※書く力の向上のために、特定の言語材料のみを用いて文を書かせる活動だけではなく、コミュニケーションの目的や場面、状況のある言語活動を設定し、繰り返し英文を書く機会を作る。
- ※多くの英文に触れる機会を作り、話の大まかな内容をとらえたり、各段落の大切な点を読み取ったりする活動を継続的に行い、読む力の向上を図る。
- ※英語を聞くこと、読むこと、書くこと、話すことの4技能を活用し繰り返し練習できる活動を行う。

質問紙調査から見る本校生徒の主な特徴

質問紙調査は、学校や家庭における勉強や生活の様子について調査したものです。全部で69項目ありました。本校生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸問題などを表しています。主な特徴は、次のとおりです。



☆ 家 庭 生 活 や 学 校 生 活 に つ い て

- *「朝食を毎日食べている」生徒は、9割に近くなっていて、昨年の調査より向上し、全国平均と比較してもほぼ同等となっている。
- *「毎日同じ時間に寝ている」は7割を上回り、昨年よりも向上しているものの、全国平均からは若干下回っている。しかし、「毎日同じ時間に起きている」はほぼ9割を示し全国平均とほぼ同等である。
- *授業やテストで分からないところをわかるまで教えてくれると9割を超えて回答している。
- *最後までやり遂げてうれしかったことがあると全国平均とほぼ同等の回答をしている。
- *ほぼ10割の生徒が学校の規則を守っていると回答している。
- *将来の夢や目標を持っていると答えている生徒は7割に届いていない。また、全国平均を下回っている。

- * 困っている人を助けると9割近く回答し、いじめはいけないことだと9割超答えている。
- * 読書が好き、読書の時間や図書館へ行く回数など、全国平均とほぼ同等であるか上回っている。

☆ 地域社会授業への関心について

- * 外国人と友達になりたい、外国のことを知りたい。外国の地域のことについて知ってもらいたいと考えている生徒は6割を超えるくらいで、全国平均とほぼ同等である。
- * 話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりできるなど、授業での活動に前向きに取り組む成果を感じている生徒が7割を超え、全国平均とほぼ同様か上回る回答をしている。

質問紙からの改善点

- * 将来の夢や目標をもたせる。
→物事を最後までやり遂げて、うれしかったと多くの生徒が感じている。しかし、全国平均からは若干下回っていることから、成就感や達成感を味わわせられるように努める。また、キャリア教育の充実を図り、社会や自分の将来を考える機会を増やし、将来像を描けるようにする。
- * 学習意欲を向上させる。
→授業改善を進め、見通し、振り返りを意識づけ、生徒が自ら課題を見つけ、問題解決できるように、動き出したくなる課題を与えられるよう努める。そのことで、学習に興味関心を持たせると同時に学習意欲を向上させる。また、自主学習ノートの取組や、家庭学習の手引き等の利用で学習の習慣化し、自ら予習・復習に取り組ませる。そのため家庭学習の手引きを有効に活用できるよう改善していく。
- * 地域との連携を深め、地域に誇りを持ち地域の発展に寄与させる。
→地域の様々な活動に積極的に参加することで、地域での存在感を感じさせ、地域の一員であることを意識させる。自分の住むこの地域に誇りを持ち、世界へ向けて発信しグローバルな視点で地域の発展に関与させていく。また、地域の活動を通して、小学生への指導などリーダーシップを発揮することで、自信をつけさせたい。



家庭へのお願い

- * 多くの子どもたちは、学校生活や家庭生活が安定している様子がうかがわれます。しかし、自信が持てないお子さんも多いようです。ご家庭での団らんが、心の支えになるかと思えます。また、生活習慣と、学力との関係は深いものです。生活リズムを整え、親子で規則正しい生活の実践をお願いしたいと思います。
- * 家庭学習は、習慣化されてきていると思えます。しかし、学習時間や内容が課題です。毎年配布している「家庭学習の手引き」を活用し、学習が充実できますようご支援していただきたいと思えます。No. TV. スマホ. ゲームの取組をテスト強化週間中をお願いしているところですが、読書を好きなお子様も比較的多くいます。読書と学力にも深い関係があることがわかっています。取組期間中でなくても、スマホを置き、テレビを消して読書の時間を作っていただきたいと思えます。
- * 地域の活動にも、一緒に参加していただくと、お子さんが地域と関わりやすくなると思えます。地域に誇りを持ち、自分たちが将来この地域を発展させていく自覚を持たせたいと思えます。日常的に関われますようご協力をお願いします。

